

静原小

学校通信

11号

2017年をどんな年に

校長 林 久徳

平成29年1月10日
京都市立静原小学校
校長 林 久徳

あけましておめでとうございます。平成29年（2017年）がスタートしました。新年を迎える、皆様心新たに様々な活動を再スタートされていることだと思います。保護者の皆様、地域の皆様、昨年は大変お世話になりました。

昨年はオリンピックイヤーで日本中が大いに盛り上がり、世相を表す漢字でも「金」が選ばれるという年でした。本校にとっては例年よりも多い7名の1年生が入学され、学校に新鮮な活気を感じられる年となりました。そんな1年生の学習をはじめ本校の取組のほとんどを保護者や地域の方々に支えていただき、様々な農業体験や林業体験、静原ならではの伝統文化を大切にした学習を行えたことに喜びと感謝の気持ちを強く感じます。また、本校の特徴的な取組の一つである夏休みや冬休みの学習会、学校を離れての対外的な活動へも子どもたちは積極的に参加し、教室の中だけでは学べないような経験により、大きな学力の基礎となる力を身に付けてくれていることだと思います。

今年は酉年ということで、今まで身に付けた様々な力をもとに、大きく羽ばたいていきたいと思います。ただ、ここで大切なことがあります。いくら様々な力を身に付け、大きく羽ばたいたとしてもどこに向かって、何を目指して飛んでいくのかが明確でなければ意味がありません。冬休みに入る前日の後期前半終わりの会で次のようなスライドを使って自分の目標を立てることの大切さをお話しました。

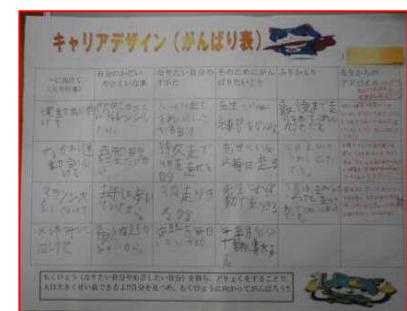
昔からよく言われている「一年の計は元旦にあり」という言葉ですが、人の成長には欠かせない目標（本校ではキャリアデザインと呼んでいます）をスタートの時にしっかりと持つことで、その1年が素晴らしいものになるということを教えてくれています。ぜひ1年のスタートにあたりしっかりと目標設定を行ってほしいと思っています。子どもたちはいろんな目標を立ててくれていることだと思いますが、わたしはもう一つアドバイスをしようと思っています。

本校の学校教育目標は「よりよい生き方を実現しようとする子どもの育成」です。今の自分をしっかりと見つめ、もっと格好いい、なりたい自分の姿を想像し、大きな目標とします。そこで終わらず、その目標の実現のために必要な身近な一步を踏み出せる目標を持つことも大切なことです。

耳触りのいいだれでもが言いそうなことではなく、自分の今をしっかりと見つめ、大きな目標を持ち、その目標に近づくための具体的な手立てとなる2つめの目標をうまく機能させて、今年も素晴らしい1年になるように子どもも教職員も共に歩んでいきたいと思います。今年もどうぞよろしくお願ひいたします。

らいねんは
どんなじぶんに
なりたいですか?
いちねん けい がんなん
『一年の計は、元旦にあり』

じぶん もくひょう た
『自分の目標を立てよう』
キャリアデザイン



お茶の体験教室

お茶についての体験学習を一保堂より講師をお迎えして、実施しました。お茶を作る方法によりお茶が4分類され、色も形も変わり、味も違ってくることを教えていただきました。作っていく中での苦労や工夫のことも教えていただき感謝してお茶をいただくことも理解できました。抹茶と大福茶の2種類で実習し、お茶を点てる、お茶を入れるの2通りのお茶を味わうことができました。苦さや甘さ、香りも味わっていました。点て方、入れ方の基本を教えていただき、実践しました。自分や自分たちで飲むために入れましたが、新年会では、相手意識をもち、おいしくいただいてもらうお茶を出すことができることでしょう。

お茶を家庭に帰っても実践していくことでしょう。また、お茶について分かったことも家庭で話せるといいと思います。おいしくいただけたので、何度も自分でお茶を点てる姿もありました。



石窯パンつくり教室

ミレットさんに行き、石窯パン作り教室を行いました。小麦を石臼で粉にすること、粉の重さを量ってませること、こねたり形を作ったりすることなど教えていただきました。最後には、「作り方を教えてもらったので、家でも作りたいです」といった感想も出ました。

自分がやりたいだけでなく、人のことを思って自然に活動ができる場面がありました。こねやすいように、ボウルを押さえる姿や片付けや掃除を進んでする姿が見られました。



書写教室

毎年、新年に実施していましたが、日程の都合で年末実施となり、書初め教室ではなく、書写教室になりました。画仙紙を床に広げて、手本を見て書きました。高学年は、毎年のようにやってきていたので、慣れた手つきで、字配りよく作成していました。一年生は、筆で書くことは、学校の授業ではやっていないので、基本的な筆の扱い方、墨の扱い方、紙の始末など確認して、進めました。基本的な筆の扱い方をすぐに覚えてどんどん書いていきました。後始末も積極的に取り組み、分かったことを他の参加者にも教える姿もありました。

スケート教室

初めての児童も多かったですが、手すりを外して、少しがんばると余裕をもって滑れるようになりました。バランスをくずしてこけても、回数を重ねると上手にこけるようになりますし、こけることも平気になっていきます。時間が、あっという間に過ぎていきました。

